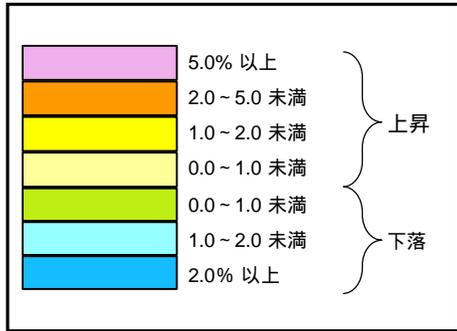


## 4 . 大阪圏の商業地

( )は前年変動率

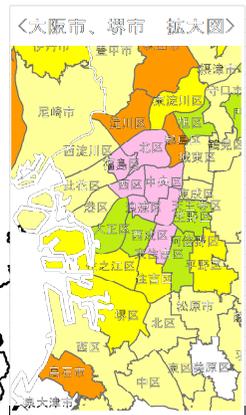
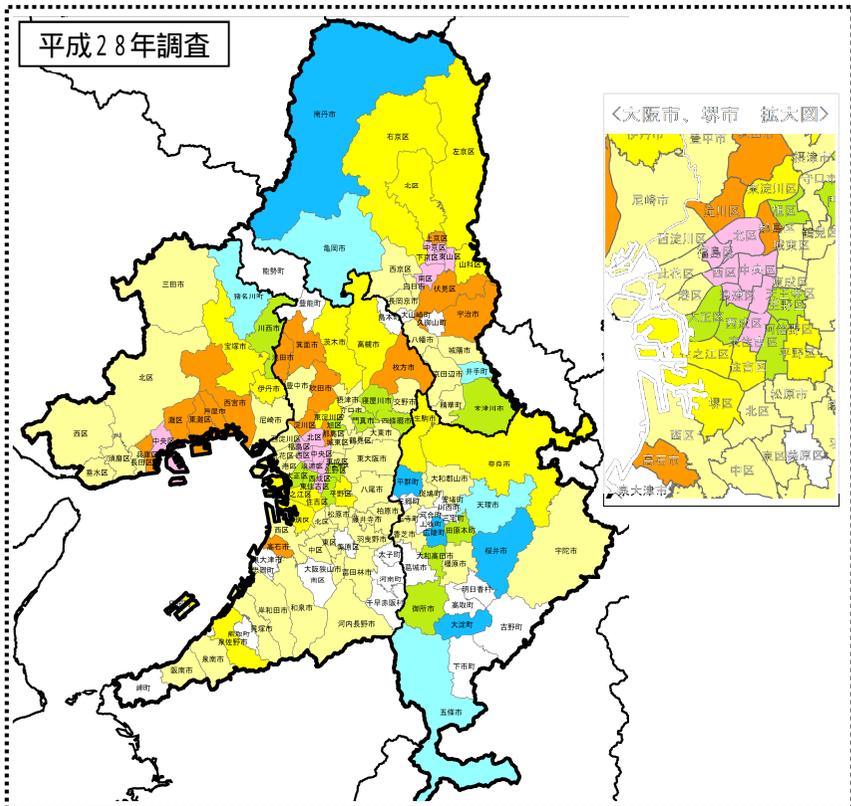
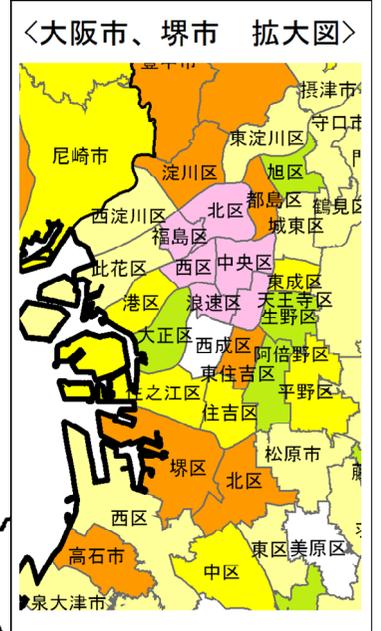
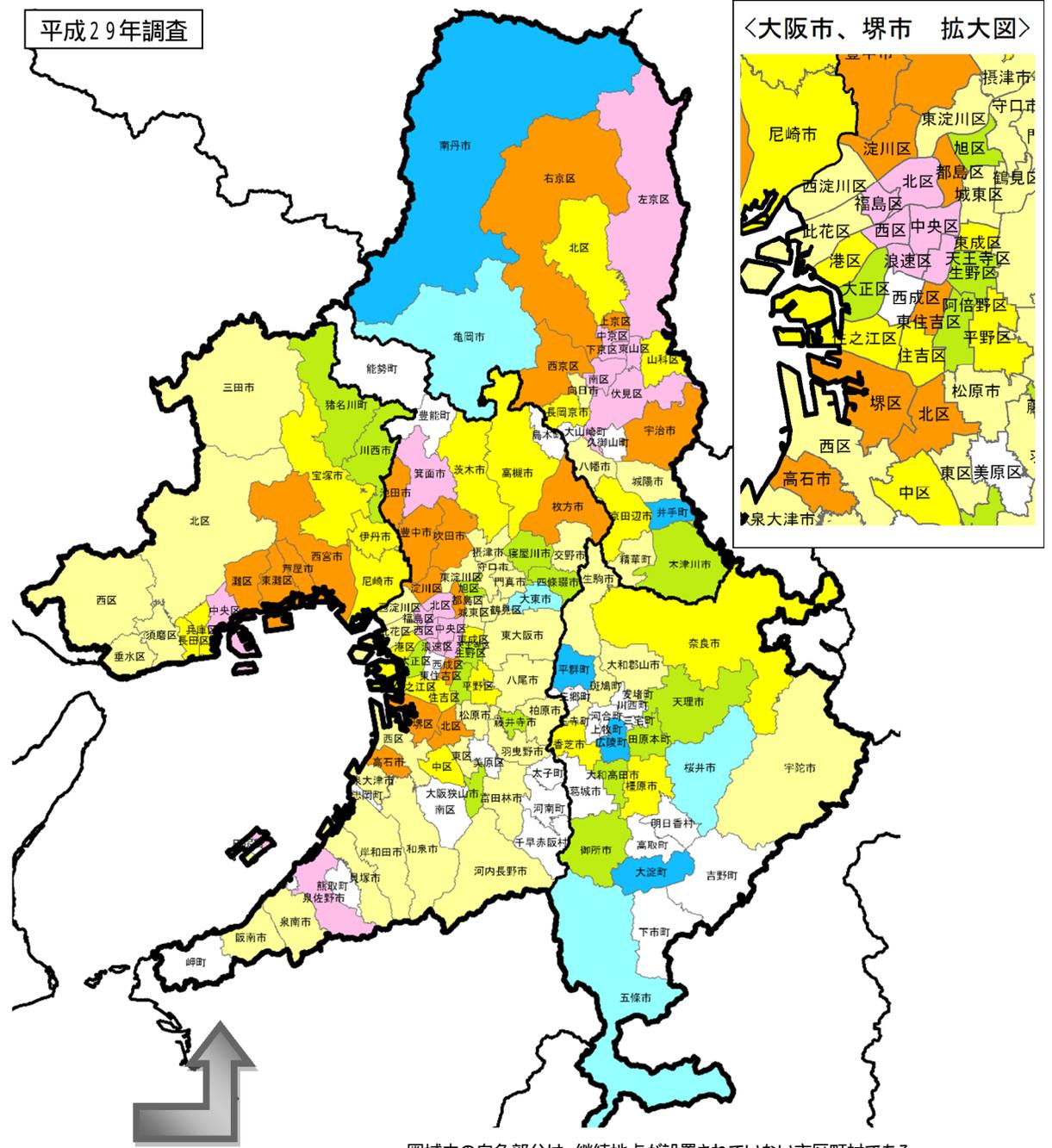
京 都 府	<p>京都市では、10.3%上昇(6.5%上昇)。国内外の来街者の増加等を背景に、全ての区において上昇を続け、上昇幅が昨年より拡大した区が多く見られる。</p> <p>京都市周辺市では、上昇を続けている市が見られる。</p>
大 阪 府	<p>大阪市では、8.0%上昇(8.0%上昇)。上昇が続いている区が見られ、上昇幅が昨年より拡大した区も見られる。</p> <p>心斎橋・なんば地区では、外国人来街者の増加等を背景に、高い上昇率を示した。</p> <p>堺市では、3.0%上昇(0.8%上昇)。上昇が続いている区が見られ、上昇幅が昨年より拡大した区も見られる。</p> <p>北部地域では、上昇が続いている市が見られ、上昇幅が昨年より拡大した市も見られる。</p> <p>東部地域では、下落が続いている市が見られる。</p>
兵 庫 県	<p>神戸市では、4.2%上昇(3.6%上昇)。東部4区(東灘区、灘区、兵庫区、中央区)では、上昇が続いている区が多く見られ、上昇幅が昨年より拡大した区も見られる。</p> <p>特に神戸市中央区では、JR三宮駅周辺での再開発事業等の進展から上昇幅が昨年より拡大した。</p> <p>県南東部地域では、上昇が続いている市が多く見られ、上昇幅が昨年より拡大した市も見られる。</p>
奈 良 県	<p>奈良市では、1.7%上昇(1.6%上昇)。</p> <p>北部地域では、上昇が続いている市が見られる。</p> <p>その他多くの市町では、下落が続いている。</p>

# 市区町村別の状況（大阪圏・商業地）



※変動率0.0%の場合、小数点第2位以下の数値を考慮し、色分けをしている。

平成29年調査



圏域内の白色部分は、継続地点が設置されていない市区町村である。